

「さんべで冬体験！歩くスキー」

～体験・体験・また体験！！～

1 趣 旨 ○冬の三瓶の自然に触れながら、歩くスキー等の体験を通して、三瓶地域の自然や体験活動に興味、関心を持ってもらう。

○親子で一緒に活動することにより、親子活動の楽しさを知ってもらう。

2 事業の概要

(1) 期 日 ①平成31年2月 2日(土)～ 3日(日)

②平成31年2月 9日(土)～10日(日)

③平成31年2月16日(土)～17日(日)

(2) 場 所 国立三瓶青少年交流の家

(3) 主 催 三瓶地域協育ネットワーク

(5) 参加者 ①97名(100名)②72名(50名)③80名(100名)、()内は募集人数

(6) 講 師 歩くスキー、自然観察、ボルダリングの研修指導員を依頼(①8名 ②5名 ③8名)

(7) 日 程 (①～③共通の内容で実施)

1日目 (土)	10:30	11:00	11:45	13:00	17:10	17:30	19:00	20:00	22:00
	入所・受付	はじめの会	昼食	【歩くスキー教室】 初級・中級・上級に分れ、広場で練習をしたり、コースを歩いたりする。	夕べのつどい	夕食・入浴	【選択活動】 ①天体観察 ②雪灯ろう作り ③木工キーホルダー	就寝準備	

2日目 (日)	6:30	7:00	7:40	9:00	9:30	11:30		
	起床・身辺整理	朝のつどい	清掃・朝食	退所点検	【選択活動】 A. とことん歩くスキー B. おもいっきりそり遊び C. 冬の森たんけん	おわりの会	解散	

※開催日②③では、1日目に十分な積雪がなかったため、ボルダリング、カラーリング、ブーメラン作りを行った。どちらも2日目は積雪があり、歩くスキーを実施することができた。

3 事業の内容

①プログラムデザインと企画のポイント

積雪の多い三瓶では、冬季は「歩くスキー」を中心とした雪のプログラムが人気である。本事業は、多くの人に雪に触れる活動を提供するために、毎年継続して行っており、今年度で7年目となる。小学生と保護者を対象とし、本所での1泊2日の生活の中で、雪のプログラムや創作活動を通して、親子、参加者同士の関わりを重視した企画としている。活動内容が天候に左右されるため、屋外の活動ができない場合の代替プログラムや活動場所の備えも大切なポイントとなる。

②運営のポイント

昨年度も、多くの募集があったことから、100名を基本の定員とした。そのため大勢の参加者がスムーズに活動でき、なおかつ安全面に留意した内容となるよう検討を重ねた。具体的には、「集合時刻や活動時間、人の流れに無理はないか」、「各活動へのスタッフの配置は適切であるか」、などである。また、スキーの研修指導員の人数を十分に確保し、子どもの年齢や技能に応じた班を6班編成す

ることとした。雪が少なく、プログラム変更を余儀なくされた実施日もあったが、様々な体験を行えたことが、結果として功を奏し、参加者からのアンケートでも高い評価を得た。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体について	90	10	0	0
プログラムについて	92	8	0	0
運営面について	90	10	0	0
スタッフの対応について	94	6	0	0

(2) 参加者の声

- ・親子で雪の中を歩いたり、転んだりして、大人も子どもの心に返って楽しませてもらいました。
- ・歩くスキーもボルダリングもカラーリングも楽しめて満足です。子どもはボルダリングを初めて体験して、面白かったようで、何度もトライしていました。いい機会になりました。
- ・スタッフの方の配慮や気遣いがとてもすばらしかったです。現代では少なくなったこと（知らない人との交流やあいさつ）も沢山できるとてもよい機会でした。

5 成果と課題

《成果》

- ・今年度は積雪が少なく、2回目、3回目は、これまでで初めて、プログラム内容を変更することとなった。天気予報を参考に、事前に変更後のプログラムを準備したことや、研修指導員との連絡を密に取ったことで、スムーズな運営ができ、参加者にも満足していただける結果となった。
- ・昨年度を元に、日程やスタッフの動きをさらに細かく検討し、実施することができた。多くの定員を受け入れ、天候による変化も生じる事業であることから、今回得た経験を次年度に引き継ぎたい。

《課題》

- ・雪の活動ができない場合は、大勢の参加者が他の活動をすることになる。今回は事前に、所内に3カ所の活動場所を確保していたことで、大きな混乱は起きなかったが、各回とも同じ場所を確保することはできなかった。天候によって様々な状況が起こり得ることを、次回担当者や受け入れを担当する職員とも共有し、万全な事業運営を図りたい。
- ・同日に他の利用団体もあり、研修指導員の確保が難しかった。今後に向けて、さらに登録を呼びかけていきたい。



歩くスキー教室の様子。雪を心配したが、全回ともスキーを体験してもらうことができた。



選択活動（夜の部）
「木工スキーホルダーづくり」の様子。
小さい子供をもつ家庭に喜ばれた。



「ボルダリング体験」の様子。
積雪がない時のために準備した各プログラムも好評を得た。

(担当：企画指導専門職 武田 尚志)